

「会津DX日新館」成果報告会 実施報告書

1. 実施概要

1.1 目的

「会津DX日新館」事業令和5年度調査研究について、各テーマの成果を共有する。

1.2 日時 令和6年3月7日（木）午後1時から午後4時40分まで

1.3 場所 ベル・ルクス（〒965-0026 福島県会津若松市平安町2-88）

1.4 参集範囲

【参加者】

- ・「会津DX日新館」関係の大学教員/学生
- ・自治体職員
- ・調査研究協力者等

【ファシリテーター】

藤井靖史（会津の暮らし研究室取締役、西会津町・柳津町CD0）

【審査員】

- ・会津管内市町村長
- ・振興局長
- ・藤井靖史

【民間事業者】

- ・押部 郁朗（奥会津在宅医療センター 医師）
- ・鈴木 真吾（荒川産業株式会社 課長）
- ・穴沢 信之助（会津乗合自動車株式会社 バス事業部 主任）

【一般参加者】

申込制

1.5 内容

下記の内容で報告会を実施した。

1.5.1 成果報告ポスターの掲示

会場に、成果についてまとめたポスターを掲示した。

1.5.2 趣旨説明

当該事業目的等の再確認、成果報告会の進行及び表彰について説明を行った。

1.5.3 成果報告

各調査研究大学、関係市町村担当者、ファシリテーター（藤井CD0）が登壇。

大学側から5分以内で成果報告。その後、市町村やファシリテーターのコメント、来場者の質疑等を5分行った。

1.5.4 発表に対するフィードバック

成果報告時にコメント等記入した付箋を、各チームのスペース（ポスター近く）に貼った。

1.5.5 表彰

来場者全員の投票により「最優秀賞」1、「優秀賞」2を決めた。
集計方法は以下の通り。

- ・来場者全員に受付時に投票用紙を配る。
→各3枚、来場者属性によって色を変える。
- ・来場者が、特に良かった調査研究に対して投票する。
→投票は同じ研究に対しては1票のみ。投票箱は調査研究ごとに分ける。
- ・係員が投票箱を開票、集計。

1.5.6 タイムスケジュール

12:30～13:00	受付
13:00～13:20	開会、挨拶（局長）、趣旨説明等
13:20～14:30	成果発表①（5分発表、5分質疑等）6テーマ
14:30～14:40	休憩（10分）
14:40～15:50	成果発表②（5分発表、5分質疑等）6テーマ
15:50～16:20	休憩（表彰準備）
16:20～16:40	表彰・講評
16:40	閉会

2. 実施結果

2.1 成果報告

各チーム5分で発表を行った。その後、報告内容についてファシリテーター及び対象町村長、民間企業担当者が講評を行った。

また来場者からの付箋による感想等のフィードバックがあった。
講評及び参加者からのフィードバック内容を下記に記す。

1「各自治体の広報課題の解決」

(会津大学短期大学部 高橋ゼミ × 会津若松市 秘書広聴課)



(発表の様子)

【講評】

(会津若松市より)

- ・他の町村の事例を実際にフィールドワークしていたのがよかった。

(ファシリテーターより)

- ・全国的に活躍している会津にゆかりのある方は、もっと会津に貢献したいと思っている。機会があればインタビューなど実施してみてもどうか。

【参加者からのフィードバック】

(町村長、局長、ファシリテーター)

- ・アンケート回答者は学生（会津短大性）の割合が高い結果となっている。若者が読みやすい紙面を目指すのであれば、短大性以外の回答もほしかった。

- ・「新たに取り入れた方が良い要素」を提案するだけでなく、「残した方が良い要素」が提案されていて提案が取り組やすいものになっていて、とても良かった。

(市町村)

- ・広報誌を見ない人が増えているように思える。デジタルへの完全移行はあり得るか？
- ・非常にうまくまとめられていました。若い世代の意見は大変参考になりました。取り入れられるところは取り入れて、さらに市民の方に手に取っていただけるように改善していきます。（会津若松市役所 秘書広聴課）
- ・特集を導入部分として重視すべきというのは同感です。表紙と特集テーマを（写真）うまく連動させた広報誌が出来るといいと思います。
- ・プロトタイプの広報誌がすばらしいです。そもそも広報誌は紙で配布した方がいいでしょうか？（金山町 長谷川）
- ・情報ページのアイコンについては見やすいと感じた一方で、省略しすぎてわからない項目もあり、全てのアイコン化は難しい？
（たぶん欄外に判例がいても続かない。内容 「内」 だけだと分かりない。
- ・興味がある特集を組む案はいいと感じました。
- ・分かりやすくまとめられています！

（民間企業）

- ・アンケート回答者層が偏っている。通常のアンケートで若い方が回答いただける告知経過が気になります。
- ・カレンダーやアイコンのアイディアは面白いと感じました。表紙や特集の重要性はその通りだと納得しました。報告書やサンプルも素晴らしいと思います。（会津バス 穴沢）

（大学）

- ・市民の人々に読んでもらえる広報誌はどのようなものを分かりやすくまとめているなと思いました。裏表紙をカレンダーにすることで、読んで終わりではなく日常生活に活用できる点が素敵だと思いました。
- ・プロトタイプのレイアウトが細かく作られており素敵でした。デザインの目的である誰に向けて何を伝えるか考えられていると感じました。
- ・生成 AI を活用した分析がどういうことをしているかもっと考えてほしかったです。

(福島大学 沼田)

- ・生成 AI がどのように活用されているかもう少し知りたかった。プロトタイプに対する評価（アンケート）をしてみてもよかったのでは？
- ・生成 AI の活用が良いと思いました。
- ・”手に取る”→を実現するためにどのような工夫が必要であるか、会津若松市役所独自の工夫まで一緒に提案があるといいと思った。
- ・広報誌の表紙を目にとまるものにするためには良い考えであると感じた。また、うら表紙を切り離して使えるカレンダーにするというのも付ろくのおもしろいと感じた。
- ・生成 AI も活用など最新の技術も活用していておもしろかった。また、パワーポイントも見やすく、分かりやすかった。
- ・生成 AI 等デジタルを活用しパンフレットを作成し、紙媒体で配布を行うというアナログとの融合が上手だと思った。イラストもとても可愛い。
- ・広報誌の顔をキャッチし、社会や現代のニーズに応えたものを使用するという着眼点がすごいと思いました。伝えたい内容をのせるのはもちろんですが、そもそも手に取ってもらえなくては意味がないと思うのでまさに重要なことだと感じました。
- ・広報課題の解決について、会津出身ではない自分にとって、会津の工芸やカフェについて詳しく記載してあり、どの年齢層も手にとりやすい広報だと思った。特にカフェめぐりの特集では、若者が行ってみたいと思えるようなカフェがたくさんあり素敵な広報に感じた。
- ・各自治体の広報課題の解決
全体的にキレイにまとめられていて大変良いと思いました。広報誌は、学生より上の世代が活用しているイメージがあるのでアンケートを取る世代を考えていくことが重要なのではないかと思います。
- ・フォントの使い方や、生成 AI を利用していることが DX のテーマに現れていると思った。アンケートはどの範囲で行ったのでしょうか。

- ・市民へのアンケート調査を基に広報誌をつくることで市民の興味のある広報誌をつくることができ、より多くの人に会津若松の魅力を知ってもらえると感じた。
- ・私も綾瀬はるかさんが表紙になると、市民の目を引くのではないかと思います。見たいです。
- ・ていねいな取り組みをされていると感じました。
- ・イラストがかわいらしく、親しみやすさを感じました。字体も色合いも良いと思います。
- ・表紙について、フォトコンテストを開催し、受賞作を表紙にするというような地域住民を巻き込んで行くと興味を持ってもらえると感じました。
- ・対象となる情報発信の媒体を広報誌とした理由をお聞きしたいです。”主要” など書かれていたのでデータ等あるのであれば知りたいです。
- ・プロトタイプはアンケート調査等を参考に作成されたと思うのですが、従来とは異なる新現的な部分はどこにあるのか気になりました。
- ・生成 AI を活用して内容を考えるという点で新しい考えが生み出されているのが面白いと感じました。
- ・手書きのイラストが暖かみがあって読みやすかったです。全ての年代の人に支持される広報誌になっていると感じました。（会津短大 中澤ゼミ 桐生実和）
- ・アンケート調査を活用することで住民目線での広報誌作製につながるのではないかなと思った。
- ・市政だよりは市民のためにあるべきだと思うので、読みやすさや市民によりそった内容になっているのが良いと思いました。
- ・ターゲットを絞ることが難しいと思うのですが、年代や性別ごとに分けた特集ページをあえて作ることで、より多くの市民が興味を持って手に取ってくれるのではないかなと思いました。

- ・裏表紙をカレンダーにすることで、 ” 読んで終わり ” 見たら捨てるだけ ” と思われがちな市政だよりを月末まで利用していただけるような ものにしているところが良いなと 思いました。
- ・AI を調査結果を活用しながら最適な広報誌の作成、考察をされていて、その点が素晴らしいと感じた。
- ・良くまとまっていると思います。実際に自治体と一緒にやれるといいですね。
- ・生成 AI を用いているのがおもしろいと思った。実際にデザインを見てみてとても見やすいと感じた。
- ・実際に広報の中身を見てみると通常の広報よりも色づかいや機能性が分かりやすく見やすくおもしろいなと 思いました。

2「鳥害対策」

(会津大学 畠・五十島ゼミ×会津若松市 環境生活課)



(発表の様子)

【講評】

(会津若松市より)

- ・今も通報から駆けつけるまでの時間が課題。
- ・カラス等の動向データの精度を高めて、引き続きご調査にご協力いただきたい。

(ファシリテーターより)

- ・将来的には自動で追い払うというより、共生するにはどうしたらいいかを検討していく必要がある。

【参加者からのフィードバック】

(町村長、局長、ファシリテーター)

- ・現段階では具体的な対策が見えない。将来的には何を指すのでしょうか。
- ・湯川村では、ムクドリの鳴き声やフン害が問題となっていますが追い払うと生息域が移るだけなので近隣市町へ迷惑がかかるのではないかと懸念があります。

・カラスの糞害は、日本全体の問題であり、解決のきっかけになる研究で、とても興味を持った。Very Good !

(市町村)

・出てから駆除するのではなく出る場所を予測するのが効率的な対策という意見に納得です。鳥害は身近で大きな課題なので効果的な解決策を期待しています。

・本町ではカラスよりもカメムシがひどいです。何か対策はないでしょうか？（金山町 長谷川）

・会津坂下町役場前のカラスのふん害がひどいです。毎日そうじをしている時期もあります。夜間に電線に戻ってきています。

・手法がすごいと思いました。最終的にどうやって追い払っていくのかが気になるところです。

(民間企業)

・集合している場所を広く市民に告知するのも必要。集合しやすい場所がわかれば対策できるのでは。

・カメラ設置しても、カラスを認識するまでは大変そうですね。
弊社屋上にカメラおけそうな気がします（笑） （会津バス 穴沢）

(大学)

・コンピュータビジョンと AI 技術の活用をしている点がすごいと思った。また、画像の飛行物体から検出する際はカラスかどうかどうやって見分けているか気になった。

・会津とは関係ないですが福島駅周辺にはカラスが大量にいます。

・現状としてはカラスの居場所を分析して傾向を調査していることがうかがえましたが、追い払う目処はどのように立てているのでしょうか。

・ごみステーションとカラスの関係に関心を持ちました。ごみのことを研究・教育しているのでどうか交流できれば幸いです。

（福島大学 沼田 numata@ecom . [fukushima-u. ac. jp](mailto:numata@ecom.fukushima-u.ac.jp)）

- ・カラスとカラス以外の鳥をどのように分類するのか気になりました。
- ・市役所に鳥害の連絡がくるとのことだったので連絡して情報を集められるのではないかと思います。

- ・カラスにもお気に入りの場所があるのがおもしろいと思った。がくほう高校の前の道路(歩道)には、カラスかは不明だけど鳥のフンが多くて問題になっていた気がします。

- ・エントロピー法など初めて聞く調査ばかりで興味を持って聞けた。鳥との共生方法などがもし見つければまたお聞きしたいと思った。

- ・自然の生き物であるからこそ解決が難しいと思うが、その実態を調査し展開していくか今後は楽しみです。

- ・カラスの判断技術を開発していくプロセスが興味深く感じられた。
- ・カラスの生体に関する知見とどのように結びついているのか？

- ・会話術が人をひきつけるものをもっていてすごいと感じた。参考にしてみたい。
- ・画像認識部分の改良と AI 機能の高さにおどろきました。
- ・ゴミすてばに集まるカラスも多いので、それも改善できたらよいなと感じます。

- ・カラスの糞害について、カラスの滞在する電線と糞害で汚れる道路の法則が分かれば、道路をきれいに保てるのではと思った。(会津短大1年 星雄大)

- ・カラスの目撃情報を基にカラスの動きを予測し追い払うことができると市民は生活しやすくなると思うので、興味の持てる研究であると感じた。

- ・カラスの目撃情報が耳に入ればお伝えします。自動でカラスを追い払うことができれば生活はもっとよくなると同じように感じた。

- ・数学的な観点からカラスの営巣領域などを分析しているのがとても興味深いと思った。
- ・カメラやコンピュータの設置が進めば完全な予測化も可能であり、とても期待できると考えた。

- ・日常生活の中でなかなかカラスについて深く考える機会はなかったため、とても興味

深い内容で面白かった。上手くカラスと共生する社会にしていかなければならないのだなと思った。

- ・カラスの撮影が思ったより難しいということがわかりました。鳥の専門家とのコラボが今後できるとよい。

- ・市内の高校（ザ○リオ高校や学○高校）などの前の歩道がカラスのふんでいっぱいにくさいし、いつカラスがふんをするかわからないのでこわくて通るとき困ってます。どうかしてほしいです。

- ・文系なので専門用語が多くて難しいと感じた。ただ、鳥獣被害は各地で問題になっているので、この技術の進歩に期待します。

- ・従来のカメラと比較して、カラスを認識できるようになっていて驚いた。特に白虎通り沿いのゴミ捨て場がカラスによく荒らされているため、何か対策を生み出して改善していただきたいと思いました。

（会津短大 中澤ゼミ 桐生実和）

- ・生態分析についてAI などを用いているのがおもしろく感じた。今後の進展が楽しみ。

- ・ゴミ捨て場の近くにはカラスがよく集まっていると感じていましたが、どこから来ているのかを知れたり、自動で追い払うことができたりしたら被害は少なくなるのかなと思い、とても良い研究だと思いました。ゴミ問題とも絡めて対策できるかも知れないと思いました。

- ・AI に指示を出すことで、カラスの行動を長い時間記録することができて便利だと思った。

- ・カラスは市民の悩みの種の1つであり、カラスを追い払えば市民の快適な生活につながります。今後も調査頑張ってください。

- ・カラスの生態分析が進むことを期待しています。

- ・アンケートの分析を通して、具体的に何が足りなく、何を残した方がいいと思いましたか。

- ・ 数字的観点と実測など様々な観点で対策を練っていく過程が工夫点だと感じた。
- ・ 会津短大の者ですが、帰り道の駅ビル付近は（夕方）ものすごくカラスがいます。また、聴衆者を楽しく巻き込めるようなプレゼンテーション力がすごいと思いました。勉強になります！

3「IP告知端末の活用方法」

(会津大学 畠・五十島ゼミ×三島町 総務課財政係)



(発表の様子)

【講評】

(三島町より)

- ・今まで町民全体に同じものを導入する方向しかなかったが、AI 町民の意見交換が行われたのは画期的だった。
- ・これから少数派のフォローをどうするかが課題なので、引き続きご意見いただきたい。

(ファシリテーターより)

- ・今までの庁内の議論は定性的な意見を基に進めることが多かった。今回の調査では、今後の財政を健全化する会議等に利用できるくらいの整合性のあるデータ、根拠となる効果測定ができていた。
- ・情報端末のコストに関する議論も今後必要となってくる。

【参加者からのフィードバック】

(町村長、局長、ファシリテーター)

- ・Chat GPT に仮想議論があるのも斬新でした。

- ・ Cluste z (n=106) 高齢者の存在、どうやって理解を得られるようにするか？

(市町村)

- ・ なやみますよね。すごく理解できますが若い人たちの意向に沿う形で結論付けしてほしいと思います。
- ・ IP 端末、やはり全戸配布か？双方向か？スマホでいいか？
- ・ IP 告知端末に限らないが、本当に必要なものなのかを調査・分析することは大事だと改めて感じた。
- ・ AI に人格を持たせて問題解決につなげたのが素晴らしいと思いました。

(民間企業)

- ・ シンプルスマホ、タブレットの貸し出しは良いですね。仮想住民の会議は発展性があると思うので他の領域でも活用できるとおもしろそう。
- ・ Chat GPT に人格を持たせて議論させる手法が面白いですね。スマートフォンの活用が最適とは分かりつつ、最終的には人と人との微調整、フォローが必要なのかなと感じました。(会津バス 穴沢)

(大学)

- ・ 公共 Wi-Fi 実現したら素晴らしいと思います。
- ・ 過疎地域の ICT 利用はおろそかにしてはいけない問題だと思うので重要な取り組みだと思った。三島町でも導入可能だということなので、今後の展望に非常に興味をもった。
- ・ 高齢化が進む三島町においては、シンプルな機能にすることが重要だと私も感じました。疫病予測の応用法なんて考えられますか？
- ・ 仮想議論を行ったことが興味深かった。分析結果も見やすかった。
- ・ Chat GPT に人格を持たせて議論させたとのことでしたが、その際に参考にした年齢層や性別などがあれば知りたいです。(あくまでデータのみを入れたのか、具体的に人

格を持たせて議論したのか)

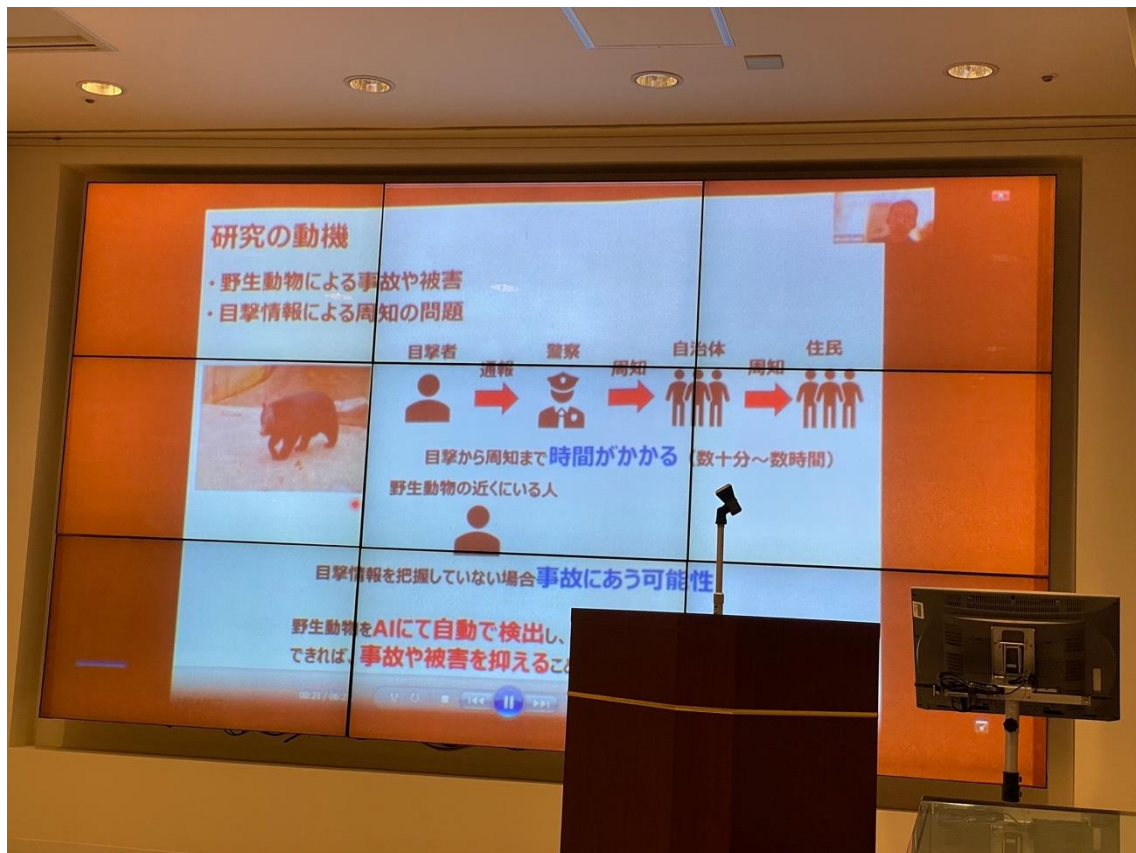
- ・結果的に高齢者や過疎化地域の住民にとって最適なものになるよう、今後も頑張っ
てほしいと思います。
- ・Chat GPT で議論させたのはおもしろいと思った。
高齢者へどのようにどんな形で学習環境の提供をするべきか考えていることがあれば
教えていただきたいです。
- ・Chat GPT による仮想議論が興味深かったが「議論」の検証はできるのか？
- ・結論として IP 告知端末はどうなるのか？
- ・アンケートから得られたデータの可視化の種が多様にあり勉強になりました。私たち
の研究にも活用してみたいと思います。
- ・Chat GPT に市民の人格を生成するということにとっても驚いたが、これによりある程
度の市民の意見が分かると思うので、これから他の分野でも活かすことができるので
はないかと考える。
- ・GPT による仮想人格の構成おもしろかったです。年齢が高くなるにつれて所有率や需
要性が低くなっていくと思います。その一方、現代では、ICT、情報化などが進むので、
デジタル格差などが広がらないといいなと思います。
- ・チャット GPT で仮想議論するという研究方法がおもしろいと感じた。高齢者へのスマ
ートフォンの活用が最適とあるが、使い方やリスクの知識を使用者に伝える必要があ
ると感じた。
- ・仮想議論の内容を見ると割と広義的でどの地域にも当てはまるように感じたのです
が、三島町であることで浮き上がってきた内容などがあれば知りたいです。
- ・Chat GPT を有効活用し、議論させるという発想がとても興味深かった。Chat GPT を
活用し議論させる上でペルソナを設定すると思うのですが、プロンプトを入力するう
えで気をつける点、注意する点を教えていただきたいです。(阿部彪河 会津短大)
- ・GPT で仮想人格を構築して議論を行うのは非常に画期的で面白いと思いました。今後
どのような活用方法が生み出されるかが楽しみです。IP 端末を活用し、生活の利便性

が向上することを期待します。

(会津短大 中澤ゼミ 桐生実和)

- ・チャット GPT に仮想人格をもたせることができるなんて面白い内容だと思った。たとえば仮想議論であったとしても様々な意見が出ていて、ICT 素晴らしいなと思った。
- ・仮想議論というアイデアがとてもおもしろいと感じた。IT の得意、不得意は人それぞれなので、より多くの人が使いやすい方法を考えることが重要だと感じた。
- ・高齢者の人にもスマホが使えるようにするのが大切だと感じた。
AI に人格を持たせられるのにおどろいた。
- ・仮想住民は年齢帯や職業帯を考慮してつくられたものなののでしょうか。私が思うに、それぞれ様々な意見が分かれると考えています。
- ・IT 技術を利用したより精度の高い調査が行われたおり素晴らしいと感じた。
- ・高齢者がよく行く近隣のスーパー、公民館などに、誰でも使用可能なスマートフォンなどのデバイスを設置し、デジタルデバイスを少しでも身近に感じられる取り組みがあるといいのかなと思いました。(会津短大1年 星雄大)
- ・高齢者はスマートフォンの使い方がわからない人が多いと思うので、そのような人でも使いやすいアプリや画面の表示があればいいなと思いました。使いやすさは人それぞれなので、個人に合ったシステムを選ぶことができればいいのかなと思いました。
- ・仮想議論を GPT を用いて行っているのが興味深かった。実際の議論ではどのような結果になるのか気になった。
- ・仮想議論がおもしろいですね。さらなる分析を期待しております。
- ・仮想議論を活用していたのがすごいと感じた。高齢者に対してのアプローチの難しさを感じた。

4「ツキノワグマ等による被害防止、安心して暮らすための環境整備」（会津大学 齋藤寛教授×会津若松市 農林課）



(発表の様子)

【講評】

(会津若松市より)

- ・ 追払い装置を設置することによって地域住民の意識が上がってきたのが予想外だった。
- ・ 今後、地域住民主体で広域の電気柵の設置を検討している。

(ファシリテーターより)

- ・ 命に関わる問題。
- ・ 追払いだけでなく、まずは認識するという機能も含め、デジタルが得意とする分野。

【参加者からのフィードバック】

(町村長、局長、ファシリテーター)

- ・ 会津13市町村共通の課題です。追払い機能の向上など改良が重要・
- ・ 獣害の被害防止は喫緊の重要課題なので今後の研究開発の進展に期待しています。

Excellent !

- ・会津坂下町でも熊の出没情報が多くなっています。今後導入を考えたい。

(市町村)

- ・商用化をめざすのか？
- ・金山町でもかなり被害があります。私も熊にやられた事があるので、今でもトラウマで精神的苦痛です。国土的に頭数を調整する必要もあると思います。
- ・対策することで地域住民の意識が変わったという成果が素晴らしいと思います。人命に関わる課題なので実用化を期待しています。
- ・クマやイノシシはともすれば命の危険があるわけで安心して暮らせるためにはとても画期的な取り組みだと思います。
- ・技術・しくみはすばらしいと思いました。設置は複数しないといけないので、コストについては気になるところです。(導入、ランニング、更新まで)
- ・住民意識の向上につながったのは良かったと思います。

(民間企業)

- ・クマ検出からメール発信までのタイムロスがないのは素晴らしいです。動画もアクセスできると良いです。
- ・クマ出没から1分で警報、メール周知ができちゃうのはすごいですね。追い払いの精度も高そうで早目の実用化が期待されますね。(会津バス 穴沢)

(大学)

- ・内容は昨年とほぼ変わらないようですが、AIの精度が高まったことが分かりました。
- ・くまやイノシシを一時的ではなく永久的に追い払うことができるようにするには、どのようにシステムを活用すれば良いのか考えがあれば教えていただきたいです。
- ・どういうケース／条件で検出しやすいのか／逆に検出しにくいのか
- ・住民がクマと接近しないための対策はとられているか？

- ・地方ならではの課題であるからこそ、研究や対策の方法の難しさがありました。
- ・クマなどの問題は、住民にとっても重大な問題であると思うので、聞いていて興味深かった。また、装置の設置には費用などの問題もあると思うが、この装置の設置範囲を広げていく予定があるのか気になった。
- ・警報器の効果が一時的なものであったということで、この改善方法が気になった。
- ・最近くまの目撃情報が多く、怖さを感じる人も少なくないと思います。このような研究が地域改善につながると思うと心強く感じます。地区ごとに検出していると思いますが、これは山下に設置しているのですか？それとも町に降りてから検出しているのですか？
- ・鳥獣対策に批判している市長(クマがかわいそう)などに対する対応は、有効な対策、理解してもらいやすい取り組みなどありますか？
- ・ツキノワグマ等による被害防止、安心して暮らすための環境整備
クマやイノシシなどの動物の目撃から周知までに時間がかかってしまいがちだが、AIの警報システムを設置することで被害を抑えることができ、安心して暮らせるようになると感じた。
- ・対策としては、電気柵を山の入り口付近に置くのが有効だと考える。(広い範囲で)ただ柵の高さなどある一定の条件を考慮しないと越えられてしまったりと効果がないと思った。
- ・私の家の近くでも昔クマが出たので警報システムはとてもいいし安心できると感じました。
- ・クマが出没することが普通の地域だからこそ、住民が安心して暮らせる地域社会を創ることの大切さを実感した。住民意識もあがっているようで、継続して取り組むことの大切さを改めて理解した。
- ・野生動物の被害を事前に減らせれば、そこへの人を割くことがなくなるので良いと思います。

・近年、クマ出没のニュースは多く聞かれる。野生動物警報システムはとてもハイテクだと思った。最短1分で周知ということなので、人命に関わる被害が減るのではないかと思った。メール登録者数を増加させる方法、実際のメールの画面が気になった。

・装置を使用することで安全性が高まることがよく分かりました。

研究後も装置を使用し続けるにも、学習されて、設置場所を避けられた時はどのように対処するのでしょうか。

・音や光で熊やイノシシを追い払うということでしたが、熊やイノシシは必ず山のほうに逃げていくのでしょうか。熊やイノシシの知識がないので、音や光だけではその場から山に戻るだけでなく、その場から住宅があるほうに逃げていくということもあり得るのではないかと考えました。

・メールの登録者が少ないように感じたのですが、今後メール以外の媒体で情報共有していく予定はあるのか知りたいです。

・日中の人間が活動する時間帯であれば事故が起きないよう追い払いをする必要性を感じたのですが、夜間にも追い払いをしている理由は何かありますか？（追い払いをすることで別地域に移動範囲が広がってしまうのではないか）

・クマを追い払うことは重要であるので、素晴らしい成果であると感じた。

・クマやイノシシを自動で追い払ったり、周囲の人に存在を知らせたりすることができ機能はとても素晴らしいと思いました。クマが驚いて興奮してしまい、山で出会った人間を襲う心配はないのかと思いました。カメラで熊の数や大きさ、子連れかなど見れるのはとても良いと思いました。

・無人でも実施できるので良い。

・動物の追い払いについて地域ぐるみで対策が必要と感じた。

・最近ニュースでクマの被害をよく見るため、AI 活用で環境整備を行うことは住民にとって非常に嬉しい技術であると感じました。クマと人間の共生により暮らしやすい会津地域になっていくことを期待します。（会津短大 中澤ゼミ 桐生実和）

・イノシシやツキノワグマを検出した際に音や光などで追い払うシステムは画期的だ

なと思った。人手不足などで対策が難しい中で、AI などの技術を用いており、必要性が高いものだと感じた。

- ・クマは市民の生活を脅かす危険な生き物なので、今後も研究を頑張ってください。
- ・ツキノワグマ等による被害防止、 安心して暮らすための環境整備
野生動物による事故は、野生動物と人が突然出会うイメージがあるため、AI によって警報することは効果的だった。
- ・メールの登録者数を増やすために何か今後の取り組みや対策はありますか
- ・ツキノワグマの住みやすい（人間だけでなく）環境をつくるという対策や取り組みも必要だった。

5「JR只見線を活用した観光施策」

(会津大学短期大学部 木谷ゼミ×柳津町 地域振興課×三島町 地域政策課×金山町 商工観光課)



(発表の様子)

【講評】

(金山町より)

- ・台湾からの観光客誘致を予定しているが、まだ属性やニーズなどのデータ調査、横展開の必要がある。

(柳津町より)

- ・感覚的なところで業務にあたっているところがあったので、今回のデータは今後の観光施策の参考になる。

(ファシリテーターより)

- ・携帯キャリアのデータ取得は有用だがコストがかかるが奥会津全体で共有すれば今後有用な観光施策ができるのではないかな。
- ・データの連携は今後重要になってくる。

【参加者からのフィードバック】

（町村長、局長、ファシリテーター）

・会津坂下町は奥会津への入口と考え、会津坂下駅を発着するツアーなど企画したい。交流人口の増加の為に外国人などの誘客を図っていききたい。

・事業は拡大したいのに高齢化、人手不足というのは切実な問題

↓

こうした状況を踏まえた施策対策があるといい

・奥会津ミュージアム（只見川電源流域振興協議会、柳津町、三島町、金山町、昭和村、只見町、檜枝岐村、南会津町、7町村で構成）に学ぶ事が重要。観光とは何か？

（市町村）

・外国人対策は単独自治体では難しいのでは？

・沿線自治体でよい案の共有・実施ができないか？

・外国人へのアンケートはぜひ実施した方がよい。まずは台湾をターゲットに！データ言語の重要性がわかった。

・知らない人に声をかけるのはとても勇気のいることだと思いますが、3日間で400人にお話を聞いたのはすごい！

・400件を越える実態調査おつかれ様でした。SWOT分析の結果も説得力があり、良かったです。

・今後インバウンド策でどのような取り組みにつながるのか楽しみにしています。

・具体的な提案まであって良かったと思いました。

・情報発信について国内でなく外国人のうち、特に台湾をピックアップした理由をもう少し詳しく知りたい。

（民間企業）

・田舎ならではのアクティビティを是非開発いただきたい。その為にデータ分析ががんばってください。

・アンケート、分析がしっかりされており納得感のある発表だったと思います。日本人だけでなくインバウンド対応で奥会津がどんどん盛り上がってくといいなと感じました。(会津バス 穴沢)

(大学)

- ・観光客実態調査 400 はすごいと思いました。
- ・実態調査・インタビューと提案がもう少しリンクしているとよいと思います。
- ・外国人が過ごしやすいようにするにはどうしたらいいかを考えていることがあれば教えていただきたいです。
- ・確かに、外国の方にも、ですね。全国のインバウンド、コロナ前6倍なのに、福島は3倍なんですよ。
- ・只見線で改善した方がよいと感じたことの調査結果から飲食店・買い物の場所が少ないとあるので、会津の特産物を販売できるようなものもあるとよいと感じた。
- ・実際に訪れた人の声を聞くことで課題解決に導く行動がたくましいなと感じました。比較したグラフが分かりやすかったです。参考にしたい。
- ・今後の展開がより具体的なもので近い将来につなげられそうだなと感じました。
- ・規模が大きく、この研究が展開していったら急速に事が発展していくだろうなと感じました。
- ・観光施策を考えるにあたり、地球の分析やヒアリングなど多くの観点からの分析が必要となるため大変であると思うが、発表した提案はとてもすばらしいと感じた。
- ・只見線沿いの観光地に外国人が多いということに驚いた。地域活性化にとっても興味があるため今後の展望が楽しみだと感じた。
- ・雪がめずらしい国や国内客でも「雪」で集客が可能だと思いました。
- ・高齢化や人手不足がやはり観光施策を考えるうえで問題視して行かなくてはならないのだなと思った。「雪」に焦点をあててPRしていくというアイディアに感じた。

- ・外国人観光客が多くいることに驚きました。
- ・多くの方から意見をもらっていて素晴らしいと思った。観光資源として昭和村のからむし織やかすみ草の収穫体験をするなどすると良いのではないかなと思う。
- ・1回来てくれた観光客にもう一度来てもらえるように、リピーター向けの施策などは何が考えられますか？
- ・弱みや脅威を改善しつつ、新しい提案ができてるのが良いと思います。2つ目の提案は実際にやってみるととってもおもしろそう！（すぐ実践できる）
- ・QRコードに肯定的なのは若者が多そうなイメージであり、調査からは50代が多かったと言っていましたが、その点はどのようにお考えなのでしょうか。
- ・調査結果の良し悪しが明確に出ていて今後の大きな課題だと思った。台湾をメインにした外国への提案は新規旅行者獲得という点において、とても有効だと思った。
- ・台湾の方に向けた情報発信はとても効果がありそうだと感じました。実際に訪れる方にとっても、待ち時間活用などの工夫により、再訪や口コミ拡大などが期待できると思いました。今後の展開が非常に楽しみです。（会津短大 中澤ゼミ 桐生実和）
- ・会津の特色をどう活かすか課題から分析し、上手く施策を提案していると感じた。
- ・多くの方々からの調査おつかれさまでした。有益な情報になると思います。
- ・只見に行かないと経験できない何かがあれば、観光者が増え、JRの活用もできるようになると思います。只見線の待ち時間を活用して手作り体験ができるという案は良いと思いました。電車が通るところに何か見応えのあるものがあれば、乗りたいと思うのではないかなと思います。
- ・工芸技術は地域の特徴を認知してもらう上で重要なので、観光資源として活用することは良いと思った。
- ・只見線は高齢化が進んでいる地域なので、若者の関心を引く取り組みをどんどんやると良いと思います。

・提案していた施策は、外国人向けの体験型ということで、それらに相乗効果があるのではないかと思った。

6「住民の意向を反映した市街地活性化」

(会津大学短期大学部 八木橋ゼミ × 会津美里町 産業振興課)



(発表の様子)

【講評】

(美里町より)

・住民の多種多様な意見の集約が役場の役割。この町にとって何がベストなのかを模索している。闇雲にやるのではなく、効率のいい登り方を見つけるために学術機関や民間と連携しながら取り組んでいきたい。

(ファシリテーターより)

・自治体が住民の満足度アンケートをとると、住民はお客様になって意しまう。住民の主体性を引き出すような共創が望まれる。

【参加者からのフィードバック】

(町村長、局長、ファシリテーター)

- ・ 交流によって住民がそこに住むことに自信と誇りを持てるようになるかが重要なポイント！No5. の JR 只見線を活用した観光にも共通する。

- ・ 住民の参画意識を高めて住民が参加するなど今後の展開に期待したい。

- ・ 会津坂下町でも昨年より中心市街地の活性化を課題とし福島大の川崎教授やゼミの学生にお願いし空き家の状況や空き家賃貸の可否について調査した。この様な事を参考にしながら、町民相談会を予定している。アンケート調査を実施しており、今後も調査を継続し、政策として、まとめていく。

- ・ 「まちなかににぎわいが必要か」という根本的な疑問から問い直して考察につなげている視点が素晴らしい！他自治体にも水平展開が望まれる。Excellent！

（市町村）

- ・ 住民に満足度のアンケートをすると住民が「お客様」になるので、住民も「サービス提供者」側になるようにという藤井先生の意見にととてもはっとさせられました。市民協働のまちづくりを目指すうえで大切にしたい視点にしようと思います。

- ・ 自ら動く住民、自ら地域づくりに参加してくれる人材を大切にしたいところです。民意を反映しようとする姿勢が素晴らしいと思います。

- ・ 住民が参画意識をもてるようなアンケート

↓

なるほど！

- ・ 住民主体でゼロベースから意見を様々聴取してまとめるという手法、大切な作業だと思います。

- ・ 「にぎわい」とは何か！ゼロベースで検討できて良かったです。

（民間企業）

- ・ つきつめると「高田」とは、こうだというアイディアが肝心かと感じました。

- ・ 多様なにぎわい需要がある中で、どれに伝えていくか、そこに参画する住民の意識改革方法・・・非常に難しいながらも、会津美里町さんの将来に大きな影響を及ぼす可能性のある研究だなと感じました。（会津バス 穴沢）

(大学)

- ・私は会津美里町の出身であるが、あらためて、にぎわいについて考える機会になった。たしかに買い物や飲食に関して市内に出ることが多かった。
- ・地域活性化の為に、住民の参画意識が重要であると感じた。また、住民の参画意識を持たせるためにどうしたらよいかを考える必要があると感じた。
- ・にぎわいが必要ないと考えているのが2割いるのが意外だった。
- ・にぎわいの定義は何だとお考えですか？
- ・まちなか交流会とワークショップでは異なる意見が出たのか？
- ・どのような「参画」が必要か？
- ・アンケート結果からの方針をまとめていくことは難しいと思うが、来年度の活動はどのようなことを想定しているのか気になった。
- ・人の集まる場所に経済や地方は発展するので、とても興味深い研究でした。他県ではなく住民の意思を反映する点に焦点があったのが良かったです。
- ・会津美里町の課題は福島市にも言えるものが多いと感じた。歩いて楽しいまちをつくっていくことが大切であると考えた。
- ・住民の活性化が素晴らしいと思います。
- ・私は美里町の高校に通っていました。にぎわっているかいないかは人それぞれ感じ方がありますが、個人的にはお店や空き時間をうめるスペースがない面ではにぎわっていないと思います。しかし学校が集まる場所など、子どもが多くいる場所にはにぎわっていたと思います。公園、体育館など。
- ・「にぎわいがない」「にぎわいが大切だ」などよく耳にするが、そもそもにぎわいとは何なのか、にぎわいは必要なのかということに着目して研究を展開していたことが面白い研究、興味深い研究だと思った。
- ・少子高齢化や人口減少の影響により、商店街などの衰退が目立っているため、住民の

方々のコミュニティが強化するようになにぎわいづくりが実現されることを期待します。にぎわいが必要ないという人が2割いたことに驚きました。(会津短大 中澤ゼミ 桐生実和)

- ・ドンキやスタバに若い人が行きがちなので、もっと中心市街地や地元のお店に興味をもってもらうことが大切なのかなと感じました。
- ・アンケートの回答者数が3割程度ということですが、より協力者を増やしていく方法はお考えなのでしょうか。
- ・今後、市街地の活性化に向けて住民、施設などに様々な需要が絡むことが感じられた。
- ・中心市街地のにぎわいを取り戻していくために、住民の「こうなって欲しい」という要望が大切だと思った。参画意識が低い住民に対してのアプローチがありますか。
- ・「住民」の定義とはどのようなものか知りたいです。定住しているとしても、それが何年単位で違いはあるのかどうか。
- ・にぎわいが必要と考えている人は日常的なにぎわいを求めているのか、定期的にイベントや行事があることによるにぎわいを求めているのかが気になりました。(自分は後者が地方によるにぎわいだと考えます)
- ・美里町は全くにぎわいがないのでしょうか。そうでないとすれば、どこがにぎわっていて、どこがにぎわっていないのかを明らかにして、にぎわっているところをさらに盛り上げていくと良いのではないかと思います。アンケートを取ってすべての意見を含んだ方針を考えるのはとてもではないけど難しいのではないかと思います。
- ・にぎわいが必要かはとてもおもしろい。
- ・多様な意見をすべて満たす方針を立てるとするのは非常に難しいと思いますが頑張ってください。
- ・今後、具体的な施策、提言が進んでいくのかとても楽しみだと感じた。
- ・アンケート調査が徹底されていて良いと思った。

・住民に対してアンケートをとることで、住民の声を聞くことができるので良いなと思いました。住民が手伝いたくなる事業を考案することや、会津美里町をよりよくしたいという思いが住民に伝わる姿勢が大切なのだなと感じました。

7「移住・定住、空き家対策」

(福島大学 塩谷ゼミ×昭和村 産業建設課)



(発表の様子)

【講評】

(昭和村より)

・政策立案の際に参考にしたい調査結果だった。昨年度から空き家改修事業を行っている。集落の一員として活動してくれる移住者をどのように中長期にサポートすればよいのか、今後ともご意見をいただきたい。

(ファシリテーターより)

・この会場にいる若い方たちも移住対象者。ぜひたくさんの方のフィードバックをいただきたい。

【参加者からのフィードバック】

（町村長、局長、ファシリテーター）

- ・集落の教科書・ガイドブックの作成など、参考となりました。会津坂下町では、空き家改修に国の補助＋町独自の補助制度を創設した。
- ・移住定住・空き家の対策は現代の最重要課題の一つ。「空き家バンク」は良い提案である。 Good ！

（市町村）

- ・移住と地元在住者のギャップ解決のコンシェルジェなど、法人が担うことは有りだと感じた。一方で、小規模町村には、そういった企業がない（少ない）ので、単独ではなく共同でなんとかならないか。
- ・他自治体でもとても参考になる調査結果だと思います。
- ・ガイドブック作成、移住者が普請に参加する（あたり前だけどできていない）。ぜひ私の地区でも実施したいです。

（民間企業）

- ・会津美里町の事例を基に提案されていますが、独自のとりくみを住民が一体となって考える必要があるのではと思います。村長の戦略は素晴らしいです！！
- ・移住者の呼び込みだけでなく、住んだ後のケアに課題があることがよくわかりました。提言内容は面白いのですが、スライドが少しわかりにくかったので、改善されると良いのかと思いました。（会津バス 穴沢）

（大学）

- ・ソーシャルデザイン思考はいいですね！
- ・より移住者を増やすことで、交流への参加者の増加が見込まれると感じました。昭和村の魅力を他地域にPRしたらどうでしょうか。
- ・空き家バンクをどう広めていくかが大切だなと感じた。若者に人気なのにおどろいた。
- ・自治会への参加を条件に空き家を貸したりすると、住民とのつながりができると感じました。

・アンケートや移住者から話を聞き、実態を知ることで、課題や解決策が見えてきたので、調査し、そこから改善策を考えることが大切だと感じた。

・調査・成果・課題・提言までの発表の流れがとても整っていてわかりやすいと感じました。

・リーフレットの作成とあったが、具体的な内容や媒体などは決まっているのか気になりました。パワポもとても見やすく、分かりやすい発表でした。

・地元住民と移住してきた人との良い共生方法について興味があるため、今後の成果が楽しみです。

・増加傾向の空き家をどのようにするか、住民・移住者の交流をどうするか、しっかり分析されていると感じた。

・移住について空き家バンクを周知させることができれば、移住者が増えると知ることができました。村でしか経験できないことがあれば移住したい人が増えると感じました。村は近所づき合いが盛んなイメージがあるので、そのような強みをもっと伸ばせたら良いなと思いました。

・具体的にどのように空き家バンクを紹介することがつながっていくのか、考えがあれば教えてください。

・ガイドブックの作成により、移住者のハードルも下がり、より住みやすい街づくりにつながると考えました。空き家は近年、深刻な問題となっているため、マッチングなどを行い問題の解決につながると期待します。 会津短大 中澤ゼミ 桐生実和

・空き家は私の地元でもよく見かけるので、具体的な対策法について知ることができて良かったです。今後の展望に期待しています。

・住まい不足に関して、自身の地元では住まいはあるのに移住者がなかなか集まらない問題があります。昭和村とは対照的だと思ったので聞きたいのですが、外部へ向けた情報発信はどのようにしているのかを知りたいです。また、毎年平均して何人くらい移住者がいるのか。

- ・人口が少ない、お店が少ないという場所に移住するメリットをどんどん増やしていければと考えております。そこに住みつづけたいと思える町づくりをしていけたらなと思います。
- ・移住者の9割が交流を希望しているという結果から、交流の場を設けることで、より村ならではの温かみを感じることができるのではないかと思います。
- ・空き家の活用によって移住者の交流のきっかけが増えて良いと思った。
- ・美里町を取り上げていますが、美里町の取り組みは先進的なのでしょうか。そうならば、なぜ美里はそれができたのでしょうか。
- ・普請や空き家バンク利用のどちらにも言えることだと思うのですが、参加・利用したくない層を引き入れることの前に、参加・利用したいが、情報がないことで参加できない人達にフォーカスすることが必要かと思います。
- ・移住者用の住まいが不足しているとのことですが、空き家利用以外にも普通に住宅や賃貸を増やす選択肢はないのか知りたいです。(今すぐに空き家の問題を解決するのは難しいため)
- ・今後は昭和村に TORCH のような役割をもつ組織をつくるという解釈でよろしいでしょうか。
- ・提言された施策が実際に行われた結果と、その後の反省点として、どのようなことが考えられるのか気になった。実現してほしい取り組みだと思った。

8「青壮年層の健康意識醸成」

(会津大学短期大学部 渡部ゼミ × 昭和村 保健福祉課)



(発表の様子)

【講評】

(昭和村より)

- ・町にとって町民の健康は何より大切。ぜひ調査の結果を具体的な施策に結び付けていきたい。

(ファシリテーターより)

- ・今後は定期的にデータがとれていくとよいのではないかと。本当に健康を気にしないといけない年代層は調査に来ない実情。今後は、小学校行事や祭事での出張調査もアイデアとしてある。

【参加者からのフィードバック】

(町村長、局長、ファシリテーター)

- ・小学生と高齢者が交流しながら取り組んでいる点が大いに評価できる。他自治体にも水平展開を期待したい。Excellent！

(市町村)

- ・なかなか参加に積極的でない方（移動手段、身体的）に、どうやって参加してもらえるか実施していくかは難しいところかなと感じました。
- ・昭和村で長年取り組んでいることが素晴らしいと思います。これからも続けてほしいものです。

(民間企業)

- ・この調査に出てこない（出てこれない？）方の状態把握が必要です。時間はかかりますが地区単位で小さく多く実施が必要かと感じます。
- ・体組成のデータを活用する重要性が分かりつつも、高齢者への働きかけが大変なのだと感じました。集会所や町内会・自治会単位で開催するしかないのですかね・・・。
(会津バス 穴沢)

(大学)

- ・そもそもサルコペニアについて説明が必要だったと思います。
- ・運動する機会づくりとして体組成はいいと思った。
- ・21 日続けると習慣になると言われているので、まずは軽い運動で続けてもらうことが必要だと考えられます。継続しているかどうかのカレンダーを作って可視化すると良いと思いました。
- ・SMI 数値、自分も測ってみたいと思いました。
- ・3 世帯が多い村を目につけたのが良いと思います。低年齢から高年齢まで健康意識をもつためにも重要な視点だと感じます。
- ・地域の発展といった面だけでなく、健康という面で調査しているのはとても興味深かったです！
- ・高齢者が体組成測定に参加することがどのように青壮年層の健康意識醸成につながるのか知りたいと思いました。
- ・「健康」は当たり前のことだが大切なものであるなので、これからどのように調査が進

展していくのかとても楽しみです。

- ・ 障害者へのアプローチ方法で何かお考えのものがありましたら教えていただきたいです。
- ・ 幼少期の運動習慣や健康への意識はとても大切だと感じた。生活習慣病や体組成について積極的に教育に取り組んでいくべきだと感じた。
- ・ 体組成測定が生活習慣病の予防にもつながるということで、私も機会があれば測定してみたいと感じた。測定の促進が非常に大切であると思った。
- ・ 運動指導を積極的に行い、健康意識を持たせることが大事だと感じた。
- ・ 高齢者の方が定期的に参加する動機づけにもなっていることが新しい発見でした。
- ・ 個人的なイメージですが、村に住んでいる方々は運動する場所や機会がなく運動不足になるのかなと思っています。そこでこのような企画を行って体組成を測定し、健康に対して意識してもらうことはとても大切だと感じました。村民の方々も次の機会に向けて頑張ろうとしているようで素敵だなと思いました。
- ・ 導入として小学校やその保護者を対象にしたのは、その人達から広まっていく可能性を感じて良いと思いました。
- ・ 青壮年層の健康への意識の低さは大きな問題だと思う。意識を高く持ち、変えていくことで健康寿命の増加につなげていけると思った。
- ・ 福島県では特に肥満率が高いことが問題となっているため、早い段階からこのような取り組みを行うことは非常に効果的であると感じました。今後、健康意識が向上し、肥満率が低下することを期待します。(会津短大 中澤ゼミ 桐生実和)
- ・ 私もあり自分の体に気を遣っていないので、もっと気にしようと思いました。
- ・ 健康な人が増加するように、数値的な分析を利用し、工夫していると感じた。
- ・ 測定の実施場所を老人ホームや村内の役場や職場などに増やし、健康診断と同時に測定することで測定者を増やすことができると思う。

- ・高齢化が進む昭和村において、高齢者に健康への意識をもたせることは重要だと感じました。
- ・高齢者が自分で定期的に運動できるようなプログラムを作成することで、高齢者の健康意識が高まっていくのではないかと思います。高齢者ひとりひとりの健康状態を知ることには大変だと思いますが、頑張ってください。
- ・外出できない高齢者もいるため、訪問して体組成を測定できれば、もっと正確な数値もできると思う。
- ・少子高齢化に加えて生活習慣病など進行も問題として考えられるので、今後とも積極的に取り組んでももらいたい。
- ・体組成を行うことによって自分の健康状態を見直すことができて良いと思った。
- ・高齢者の方々の体組成を測定して、健康増進につながるためのアイデアや取り組みを見つけ出すというのは、とても興味深いと思いました。

9「奥会津地域における地域福祉・保健・医療のDX」

(福島大学 鈴木ゼミ×柳津町 町民課×三島町 町民課×金山町 保健福祉課×昭和村 保健福祉課×奥会津在宅医療センター)



(発表の様子)

【講評】

(奥会津在宅医療センターより)

- ・地域包括支援サービスをどういうふうに展開していけばよいか、は常に現場の課題でもある。DXの「X」が本当に難しい分野。
- ・自助・公助・共助・互助の「互助」が現場での経験値が少ない。今後も一緒に地域課題について考えていきたい。

(昭和村より)

- ・広域での情報共有と連携が有効な分野だと考える。

(ファシリテーターより)

- ・若者がこの分野に飛び込むことは地域にとっても有効なことだと考える。
- ・DXで医療と交通は相性がよい。乗合システムの構築などは、過疎地域にとって重要ではないか。

【参加者からのフィードバック】

（町村長、局長、ファシリテーター）

- ・ビジョンを最初に提言した点は非常に斬新です。課題把握が的確で素晴らしい。プレゼンが秀逸です。Excellent！「トライ&エラー」→「トライアル&エラー」ですよ。

（市町村）

- ・調査・分析をふまえたコンセプト・今後の展開など非常にすばらしいと感じました。
- ・ぜひ金山町にも調査に来てください。在宅医療センター機能は過疎地域にとってはありがたいシステム。それにしても「人」に頼るところは大きいと感じました。
- ・奥会津の高齢者のことを考えていただいたのは大変ありがたいと思いました。

（民間企業）

- ・健康な方の問題→Mags で解決？。在宅医療が必要な方の問題→距離と頻度の問題。
- ・「人のあたたかさ」を大切にすることは素晴らしいコンセプトです。あたたかいゴールを期待します。
- ・現地取材を踏まえてのビジョン・コンセプト設定が説得感もあり楽しみだなと感じました。（会津バス 穴沢）

（大学）

- ・博士トンネルの開通によって、色んな人が交流し、ふれあえたらいいなと感じた。
- ・地域課題のビジョンはどのように設定したのか？
- ・在宅医療の可能性を感じることができた。今後、都市部と変わらない医療やケアができれば良いと思った。
- ・デジタル技術を用いて地域での医療ケアを行っていくのはとても面白い取り組みだと感じた。住民に、いかにデジタル技術を身近に感じてもらうかが大切だと感じた。
- ・高齢者になると病院へ足を運ぶのも困難になると考えました。その点はどのように解決していくのでしょうか。
- ・今後もつづけて課題解決に向けて頑張ってください。

- ・「ソーシャルデザイン思考」というゴールから逆に考える取り組みは、実現のために様々なプログラムを考え、実行できるため、よりゴールに近づける取り組み方だと感じた。
- ・ビジョンを明確にし、調査を行っているのが良かった。今後の展開も興味深いです。
- ・好きなものを食べて健康維持できたらとても幸せですね。
- ・奥会津の課題を見つけ、それらをどのようにして解決するかをよく考えられているなと思いました。住民の気持ちを大切にしながらコンセプトが設定されており、良いなと思いました。学生ならではのアイデアを楽しみにしています。
- ・ソーシャルデザイン思考、興味深く勉強させてもらいました。ありがとうございます。
- ・20年後の姿を考えてみるとのことでしたが、今回の80~90代の方にインタビューした内容を踏まえた上で20年後に80~90になる60代の方などにも調査をすることで求められているものがより見えてくるのではないかと思います。(ニーズは変化するため)
- ・とても興味深い発表内容だった。どのようにヒアリング調査をしたのか気になった。
- ・多くの市町村と連携して課題解決に取り組んでいて、答えのないテーマにも関わらず、うまくまとめられていてすごいと感じられた。
- ・人々の交流に重きをおきながら様々な視点から分析している点が素晴らしいと感じた。
- ・博士トンネル開通が市民に大きなメリットの数々を与えていることがわかりました。今後も昭和村のために頑張ってください。
- ・一人一人に話を聞くことで、住民に寄り添った改善ができる点で非常に良いと思いました。また、「好きなもの食べて歯を守る」というところが、個人を尊重したコンセプトになっており、受け入れられやすくなると思いました。(会津短大 中澤ゼミ 桐生実和)

- ・難しい課題に取り組まれて立派です！
- ・発表するのが上手すぎてあこがれます。スライドや説明も分かりやすくて内容がよく入ってきました。
- ・高齢者社会がゆえに医療面でもより一層、地域に密着した活動をしていて、素晴らしいなと感じた。内容とは関係ないですが、とても聞きやすい発表で楽しく、難しい内容でも頭に入ってきた。
- ・介護などを越えて福祉社会、そしてまちづくりという広範囲に及ぶのだなと感じた。
- ・ヒアリング調査を行ったことで、現状を知ることができていて良いと思った。

10「路線バスの「利用しにくさ」の改善」

（会津大学短期大学部 中澤ゼミ×会津若松市 地域づくり課×会津乗合自動車株式会社）



（発表の様子）

【講評】

（会津乗合自動車より）

- ・ 広告収入など活用すればより実装可能なサービスになっていくのではないかな。
- ・ 外国人観光客向けに多言語対応機能があるとより利用者獲得につながるのではないかな。

（会津若松市）

- ・ 路線バス利用者へ減少している。遅延情報までわかる機能は素晴らしい。

（ファシリテーターより）

- ・ 会津乗合自動車からのオープンデータに基づいた Web アプリ開発。

【参加者からのフィードバック】

（町村長、局長、ファシリテーター）

- ・ バス利用の利便性向上に貢献できるシステム！バスだけでなく、タクシーなどにも応用できる気がします。Excellent！

（市町村）

- ・ すごく現実的で実現性がある。実装まで、そこまで遠くないのではとも感じました。テーマはバスですが、電車などの転用や組み合わせなど様々に広がりそうですね。

- ・ ぜひ使ってみたい！

- ・ すばらしいシステムです。様々な公共交通に利用できそう。只見線とか。

- ・ システムを開発してしまったのはすごいと思います。完成させるのはとても大変だと思いますが、がんばってください。

（民間企業）

- ・ ぜひ多言語化に対応していただき、実用化度を高めていただきたいです。

- ・ 大変すばらしい研究をありがとうございます。待ち時間の提案・バスロケの見やすさ改善につながり、バスの利便性向上の一助になると思います。

（大学）

- ・ DX の活用（実装）がわかりやすく説明できました。実際の使い勝手は？

- ・システムがすごく便利そうだと感じた。これが上手く使えるようになると、他の地域でも活用できるようになっていいと思った。
- ・あまり馴染みのない地域に行くとどのバスにどこから乗るのか分からないが、このシステムを使えば自由に効率よく観光できると感じた。
- ・ユーザーの状況をもとに推薦スポットを探してくれるのはとても便利で良いなと思いました。バスがリアルタイムでどこを走っているのかや遅延時間がわかれば、効率よく時間を使えたり潰せたりするので、すごいと思いました。
- ・バスをよく利用していたので、このようなシステムが実用化されたら便利になると感じました。
- ・利用しにくさは、私自身感じていたことなので、アプリを用いて分かりやすくなるというのが良いと思った。地図の見やすさやユーザーが使える機能が特に良いと思った。
- ・私もそうなのですがバスの到着時間や出発時間によって縛られている感覚があります。寒さや暑さの中でも快適に待てるような設備があると良いなと思います。
- ・公共交通へのデジタル活用は素晴らしいです。
- ・情報の技術を存分に使った研究で良かった。今後の展開がとても気になります。
- ・システムの作成はとてもすごいと感じた。バスの待ち時間の解消だけではなく、地域社会の活性化にもつながると思うので、自分も体験してみたいと感じた。
- ・バスロケーションシステムは地元住民のみならず、観光客にとっても非常に便利なアプリであると感じた。福島市（私の地元）でも取り入れてほしいと思った。
- ・私はバスの本数が少ないところに住んでいるので、とても便利なシステムだと思いました。周辺スポット推薦機能はお店の少ない地域では機能しないことがあるのではないかと思います。
- ・全く初めて使う人を対象として試験を行うと意外な課題が見つかるかもしれません。いずれにしても完成形だと思います。期待しています。

- ・利便性向上のためには、バスの運行だけでなく、消費者がバスを利用しやすい環境作りが必要だと感じた。
- ・車内の混雑状況が分かるような表示はあるか。混雑時に大きな荷物を持って乗りたくないというのが自分の考えなので知れると良いと思った。
- ・有用なツールになりそうですね。
- ・バスの利用は意外と少なく、私自身、使う時は調べを慎重に行っています。乗るだけでドキドキしてしまいます。それは利用しにくいからなのでしょうか？これを使用してみたいと思います。
- ・ハイカラさんは遅れてくることが多いので、バス情報提供システムができると、かなり時間と心に余裕ができるのでありがたいと思った。イライラすることも減るので、とても良いシステムだと考えた。ユーザーの状況に応じたスポットが出ることも役に立つと思った。
- ・自分自身もバスを利用しているため、ユーザーの意見を取り入れながら従来のシステム以上のものが実装されることを期待します。
- ・GTFS データというものがあるのを初めて知りました。非常に難しい研究だと思いますが、今後もシステム利便性向上に向けて頑張ってください。
- ・アプリ使います！！
- ・アプリの使い方が分かりやすく、気軽に取り入れられそうだった。

11「子どもの運動不足解消と運動能力及び体力の向上」

(福島大学 松本先生×会津大学 沖先生×会津大学短期大学部 渡部ゼミ×喜多方市 こども課)



(発表の様子)

【講評】

(喜多方市より)

- ・調査期間も人数も少なかったもので、長期ビジョンで継続してデータをとっていただきたい。定性的にはとても充実したという子どもからの意見があった。

(ファシリテーターより)

- ・他町村からも利用者がある施設なので、特に「子供の健康増進」に関心のある保護者が多い可能性がある。今後も多方面からの調査を期待したい。

【参加者からのフィードバック】

(町村長、局長、ファシリテーター)

- ・調査を体組成調査を取り入れて行ったことが大いに評価できます。より定量的で納得感のあるものに仕上がっています。Very Good !

(市町村)

- ・3つのゼミで協同で実施したのがすばらしい。「めぐぷらざ」に行ってみたいです。

(民間企業)

- ・運動強度やその遊具を使うことでの運動機能改善などを教える教えないでどう結果が変わるのか？とか。より効率的なデータもあると良いのでは？と思いました。継続データ収集が必要です。
- ・福島県は肥満度が高いので、子どもの時からこういった運動プログラムで、より健康的な身体作りを目指せるのは良いなと感じました。(会津バス 穴沢)

(大学)

- ・子どもの運動能力向上、体力の向上を目指す中で、パルクールやアルティメットなど、日本では未だマイナーなスポーツを取り入れていくことで、マイナースポーツの認知度UPと子どもの体力向上、どちらも見込みがあるのではないかと感じた。
- ・筋肉量から子どもの成長を知ることができるのがいいと思った。室内で遊べる施設は貴重だと感じた。
- ・それぞれの調査の関連性をもう少し知りたい。「立ち幅跳び」の記録向上は体力・身体の使用方の何が影響しているのか？
- ・データ分析を通じた研究の展開がとてもまとまっていて良かったです。
- ・定期的な体組成測定を今から行おうと思います。運動しない人はあまり機会がないかなと感じました。
- ・子どもの体力を測定することにより、数値化でき、今後のプログラムに活かすことができると思うので、今後の研究結果が楽しみです。
- ・めぐぷらざの運動プログラムがどれも子どもが楽しんで参加できそうなものでいいと感じた。
- ・体育の授業よりも効果があるめぐぷらざの運動に非常に興味がわきました。幼少期から積極的に施設を活用することで、健康意識が高まるため、県全体の肥満率が低下することを期待します。(会津短大 中澤ゼミ 桐生実和)

- ・子ども達の運動不足解消のために、適切な運動時間の解析など様々な観点で分析できていると感じた。
- ・身長・体重以外の観点からも健康状態を測定する取り組みが良いと思った。
- ・冬は雪が降り、外で遊ぶのもなかなか難しく、そもそも公園で遊ぶことも難しい現状で、このような施設を利用して健康づくりをしていくのが興味深かった。（短大）
- ・やらされている、というよりも自然と遊ぶなかで運動不足が改善できるようになれば効果がもっと高まるのではないかと思った。（福大）
- ・スポーツ庁が実施している体力調査において低下傾向にあるのはまずいですよね。子どもの体力向上にむけて今後も研究を頑張ってください。
- ・運動プログラムのチャレンジ名が良くて楽しそうな感じがしました！
- ・周辺市町村にも情報が伝わっている一方で、まだめぐプラザの認知度は限定的かもしれませんので、周知の方法についても検討の時期かもしれないと思います。いずれにしても周辺地域に波及する取り組みだと思います。

12「家庭系ごみの減量化」

(福島大学 沼田ゼミ×湯川村 住民課)



(発表の様子)

【講評】

(荒川産業より)

- ・広域でゴミ削減は担当者レベルでは危機感を持っている。湯川村での取り組みは広域で展開できる可能性があると考え。ゴミは資源になるので、その所の周知をこちらでも進めていきたい。

(湯川村より)

- ・住民のゴミに対する意識が高まり、集落に対する個別のゴミ処理に関する説明会を開催するに至った。
- ・課題が明確になり、住民に対してのゴミ処理に関する冊子を発行するに至った。

(ファシリテーターより)

- ・民間から見るとゴミは貴重な資源。炭化技術の研究なども進んでいる。

【参加者からのフィードバック】

(町村長、局長、ファシリテーター)

- ・会津坂下町では、ゴミ有料化を実施しています。分別も大変良く進んでいます。有料の金は基金として積み立て、広域圏の施設整備費に充当します。

（市町村）

- ・村民の方の意識がまず大事かと思います。おそらく悪気はなくても分別出来ていない人が多いと思います。すごく大事なとりくみだと感じました。

（民間企業）

- ・自治会向けの説明会は素晴らしいです。ゴミ問題は住民意識がかわらないといけないです。がんばりましょう！！

- ・ゴミ減量というテーマについて、非常に面白く重要な研究だったように思いました。報告のスライドも大変分かりやすかったです。今後の展開が楽しみです。（会津バス 穴沢）

（大学）

- ・DX の” D” の部分で、自動で水気をゆったりゴミ分別する機械を使用し、住民の分別の手間を省いたりすることができれば良いと思った。

- ・いつでも出せるスペースを作るのは良いと感じた。

- ・生ゴミを乾燥させて体積を減らせる小型乾燥機などを家庭に導入することで、ゴミの量を減らせると思った。（会津短大1年 星雄大）

- ・課題である4つを解決できるよう、提言したアンケート回収だけでなく他の方法も考え活用できたら素晴らしいと思いました。

- ・ごみ排出量が増えた自治体・減った自治体があるのはなぜか？（その中でも湯川村が増えたのはなぜか？）

- ・湯川村で課題となっている分別できていないことは、他の市町村でも課題となつていと思うので、分別するための対策を湯川村だけでなく、より多くの市町村に周知するとよいと思った。

- ・不必要なものを買ってしまうことで、ごみを捨てる機会が多いと実感しているため、ごみの分別や不必要なものを買わないといったことに注意していきたいと思いました。

また、スライドに図の工夫が見られ大変分かりやすかったです。(会津短大 中澤ゼミ 桐生実和)

- ・ごみを分別することは大切なことですが、市民に分別してもらうためにはどうすればいいか考えるのは難しいことに感じます。難しい課題ですが、頑張ってください。
- ・ごみ削減に最も効果的なのは、有料化かもしれません。課題解決に向けてナッジの知見が役に立つかもしれません。
- ・ごみの減量は、一人一人の意識の変化が必要だと思うので、周知することの推進の必要性を感じた。
- ・単純に減らす努力だけでなく、分別でも可能であることがわかりました。今後も期待しています。
- ・福島市もそうですが、ごみ問題は本当に難しいですね。ごみの分別は住民の意識次第で可能になると思うので、ごみの分別の必要性を住民と共に学んでいくことが大切なのかなと思いました。
- ・可燃ごみの半分以上が水分で組成されていることを初めて知って面白かったです。推進員以外の住民の方からの意見も気になりました。
- ・SDGs にもつなげられる課題、調査だと感じました。分別意識をどう高めていくか考えを深めていきたいと思います。
- ・湯川村が最も小さい市区町村なのに、ごみの量が多いということを初めて知った。ごみ問題はかなり深刻だと思った。スライドがとてもみやすく、デザインもかわいいと感じた。
- ・調査結果から得られたゴミに関する問題点がどのような原因から起きているのか気になった。
- ・パワーポイントが見やすく、調査から課題発見までの経緯も分かりやすかった。
- ・今後の展開にある「課題解決に向けたアンケート」とは、どのような内容でしょうか。また、「全 983 世帯から無作為に抽出し」とありますが、なぜ全員にアンケートをとら

ないのでしょうか。

- ・とても良い取り組みだと思います。続けてほしいです。

2.2 表彰

来場者全員の投票により「最優秀賞」1、「優秀賞」2を決めた。

- ・最優秀賞（39 票）・・・「路線バスの「利用しにくさ」の改善」
- ・優秀賞 1（31 票）・・・「家庭系ごみの減量化」
- ・優秀賞 1（24 票）・・・「移住・定住、空き家対策」